



4月号

# ステパノだより

No253

**今月の聖句**  
 『あなたがたは、キリストと共に復活させられた  
 のですから、上にあるものを求めなさい。』

(コロサイの信徒への手紙 第3章1節)

◎4月の予定 (4月1日現在)

4日(日) 復活日

6日(火) 一学期始業礼拝

7日(水) 入学礼拝式(小・中)

8日(木) 給食開始(小2〜中3)

身体計測、視・聴力検査(中)

9日(金) イーaster礼拝

13日(火) 身体計測(小)

14日(水) 視・聴力検査(小)

17日(土) 保護者総会(書面開催)

19日(月) 給食開始(小1)

28日(水) 体力テスト

30日(金) 教職員協議会、体力テスト予備日

◎5月の予定

11日(火) 春の遠足

13日(木) 春の遠足予備日

18日(火) 授業参観・保護者会



## 耐用年数

学園長 小川 正夫

仕事を長く続けていると、自分はまだこの程度の間人なのかな、と実感することがあります。見えていないもの、知らないことがたくさんあることを知ります。

人間の耐用年数は使い方にもよりますが、社会に出て、凡そ六十年ぐらいに設計されていると聞きました。また、自分にとっては何の得にもならなくとも、人の為に行動していると、仕事に求められる人になり、仕事に生き甲斐を得て長続きすると、先月読んだ本にありました。

日常共に仕事をしている仲間や保護者は若々しく、子どもや孫の年頃で、児童生徒は曾孫の世代ですので、私の耐用年数はかなり伸びているように思います。

聖ステパノ学園に勤めて二五年になります。この学校は、大きな青い空、相模湾の蒼い大海原の近く、豊かな森の緑の中にあり、熱心で優しい教師、素直な子ども達の笑顔を大切に、とても良い学校だと思います。

人を測る真の尺度は、自分に何の利益ももたらせない人に対して、その人が、どのように扱うかということであるという言葉がイギリスにあります。それがわかる子に育てたいと思います。

## 疾風知勁草

統括教頭・中学校教頭 佐藤 紀明

疾風知勁草（疾風に勁草を知る）は後漢書に書かれている言葉で、私の座右の銘です。

風の無い日は強い草も弱い草も区別がつかせませんが、強い風（疾風）が吹き荒れると、強い草（勁草）はそれに耐えて立ってますが、弱い草は直ぐに倒れてしまうことから、強い風を受けて初めて強い草の存在を知ることができるという意味です。人間もこれと同じで、平穏な日々では強い人間も弱い人間も見分けてつきません。困難や試練に出会って初めてその人間の強さや真価が発揮されるのです。

勁草は強風になびかぬ強い草ですが、信念を固く守って変えない人にも例えられています。昨年はコロナ禍の中、多くの困難や試練があり、このような時だからこそ疾風知勁草を思い出し、そうありたいと心がけてきました。

いつも強い意志を持ち、初志貫徹の精神で揺るがぬ姿勢で何が起きても動じなく、毎日地道に積み上げている人を見ました。

「芯のしつかりした人」「軸を持っている人」「ブレない人」「強い信念を持っている人」は一朝一夕で、そうなれるわけではありません。

理想とする姿に自らを近づけるために、毎日「果たしてこのままでいいのだろうか」と自問自答を繰り返して、疾風が来ても信念がブレない勁草のような存在でありたいです。

## 今年度の抱負

事務長 佐藤 雅美

昨年はコロナウイルスにより働き方や学び方が変わったりと、日々動いていくコロナ禍の中で、私たち一人ひとりが、毎日新しい一日を過ごしていただくさんの人の支えがあつてこそ毎日過ごしているという実感を改めて感じました。

今年度は、事務長という責任ある立場を頂き、不安はあり、迷う事も失敗することも多々あると思いますが、日々子どもたちを見てみると、感情のままに走り出したり、大きな声をだしたりして「生きること」「そのものためにエネルギーを使っていて生命の充実を感じます。

私自身も、子どもたちを見習って、この立場をプラスに考え、自分磨きをして人間力を高めて、自分自身に重荷をかけて、常に自分をアップデートし続けようと思います。同じ時代を生きている人あらゆる世代に意識を向けて、大きな視野を持つことにつなげていき、過去を生きた人から学び、これから育っていく子どもたちにそれを伝え、いま自分たちがどんな姿を子どもたちに見せるかによって未来が変わってくるような気がします。

どうぞよろしく願います。



教諭 赤田 祐章

学習支援 飯田 幸子

教諭 飯田 裕美

『十二』という数字は生活の中でたくさん使われています。十二進法の名残とも言われています。一年の月の数・時間(時計)・干支・ダースなど数の単位、キリスト教では、イスラエルの十二部族・十二使徒などがあります。学校生活で探してみると、ピアノの一オクターブも十二という数字が関係しています。一つの『ド』から上の『シ』までの白と黒の鍵盤を数えると、白が七つ、黒が五つで十二個になります。鍵盤はどの音が欠けても曲を奏でることができません。

さて今年度の小学校三年生は十二人で生活が始まります。児童・生徒はそれぞれの音を持っています。一人ひとりが思い思いに自分の音を鳴らすと、時には和音を奏する時もあります。不協和音になってしまいう時もあります。しかしお互いの音を聴き合い、心を一つにして音を鳴らすとき、一つのメロディーが生まれます。心地よいメロディーは、奏でる人だけでなく、聴く人の心にも響くものになります。

今年度私は、児童・生徒が持っている音を合わせて、全員で一つのメロディーを奏でられるようにサポートしていきます。このことを目標に、一年間取り組んでいきたいと考えています。



三月末で、二十四年間在職しました本学園を退職いたしました。在職中は皆様には大変お世話になり、また、お支えいただきありがとうございました。

小学校の産休補助教員として学園にお伺いしてから常勤の小学校教諭、中学校教諭を経験させていただき、今回は「臨時教育学習支援」という役割をいただくことになりました。

まるで三月に卒業して、四月に入学する聖ステパノ学園小学校から中学校に進級してきた生徒達と同じようにワクワクとドキドキが同居しているような今の心境です。

同じ学園内でのお仕事とはいえ、やはり新たな立場ということですので、「初心忘るべからず」の気持ちを大切に、精一杯務めさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

コロナによる自粛期間中、学校に子どもがいない数か月間というものは、とても寂しくつまらないものだったことを思い出しました。そんな思いの中、六月から待ちに待った学校が再開し、寂しさも忘れ、子どもたちとともに喜怒哀楽に忙しい日々を過ごしながら、昨年度が終了しました。

しかし、子どもたちがいない、がらくんとした教室を見ると、再び寂しさが思い出されるものです。

年度途中で終わってしまった一昨年度。二か月少ない昨年度。やはり学校は、一年通して子どもたちと過ごしたいものだと思われて改められるコロナ禍です。

そんな寂しさから、新年度は心機一転。中学生たちと共に、日々を過ごさせてもらうことになりました。

そんな私の今年度の抱負は、「日日是好日」です。

こんな時だからこそ、毎日が良き日となるように、限りある中でできること、楽しいことを子どもたちとともに日々模索しながら、楽しめるよう努力していきたいと思えます。そして、改めて「これからの家庭科」も見直していきたいとも思っております。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

看護師 上川 隆子

最初にこの学園に来た時、その自然環境に圧倒されました。時を重ねた景観、風や匂い、植物や生物の生業、四季の変化、どれも素敵で、それらを呼吸のように吸収し、育まれていくことの素晴らしさを感じました。

私は勤めてまだ2ヶ月と日が浅く、他の先生に相談し助言を得ることで、やっとなんとかやり終える日々を過ごしています。悩むことも多いですが、子どもたちの、頑張っている姿を表現しようとする姿や、自分の行動を振り返りながら、どうするべきかを考える姿に触れたり、関係性を徐々に作っていく中で、成長過程に寄り添える素晴らしさも感じています。

子どもは知識欲の塊だと言われています。本来のまま、のびのび過ごせるよう保健の面から支えていきたいと考えています。また私が接する時は、ケガや病気の時、気持ちが変わっている時など、つらい気持ちの時の多いと思います。少しでも、安心できる存在になれるよう努めたいと思っています。



教諭 金阿彌 勉

新中学二年生を担当させていただけることとなり、無事一緒に進級できた気持ちでとても嬉しく感じています。

真ん中の学年で中学校三年間の折り返しにもなる学年です。後輩が入ってきて張り切る気持ちとちゃんとしてくれる心配な気持ちとがあることでしょう。

また、次のステージに向け進路選択のために自分自身やどんな進路があるのかを知ることでも重要で、「自分はどうしたいのか」「どんなことに関わってみたいのか」ということを自問自答する機会も増えることと思います。そんな大事な二年生の学級通信の名前を『いこいの広場』としました。

理由は二つあります。昨年度彼らと一緒に過ごしている時にとっても寛ぐことができ、私自身とても癒されてきましたので、その雰囲気今年度も継続しさらにつながりを深めていってほしいという願い。

もう一つは、昨年度まで環境美化委員会が完成し名前も決まったものの、「いこいの広場」防のため使うことができません。今後状況が好転し、中学生全員で憩えるようになってほしいという願いを込めました。

一年間どうぞよろしく願いいたします。

小学校教務主任 上戸 基夫

不安に満ちた毎日が続く中、今年も学園の桜が満開になりました。どんな時でも満開になる桜に生命の力強さを感じます。

学園は約一か月前に小学校六年生を送り出しました。立派に成長した姿に心打たれると同時に、卒業生から学園生活の一つひとつが、子ども達の成長にどれだけ大きな影響を与えらるか、改めて教えてもらいました。

学校生活は、子ども達にとって毎日大きな学びです。その時その日出来ない事も、日々学び続けることで、後に見直して見ると必ず成長につながっています。

何事にも時があり  
天の下の出来事にはすべて  
定められた時がある。

コヘレトの言葉三章一節

今年は四年生担任としてスタートラインに立ちました。小学校生活後半をむかえる子ども達は、これから始まる学園生活に希望を抱いていることでしょう。改めて日々の学びを大切にしながら子ども達と歩み、「その時」一つひとつに意味を持ち、成長につながられる様、努力していきたいと思えます。

言葉の力

教諭 草山 広子

今年の春、新中学一年生になった子どもたちとは、一緒に入学し、三年生まで学校生活を共にした間柄です。入学当初、聖ステパノ学園の新校舎建築と重なり、教室は、旧校舎から仮の部屋を経て、二年生で新校舎に入りました。日々の持ち物や、曜日によって変わる礼拝の場所などは、子どもたちと一緒に覚えてきたものでした。先日頂いた卒業文集に、三年生の時のエピソードが書かれた作文を見つけて嬉しくなりました。みんなの心が一つになった喜びが書かれていました。卒業式で成長したみんなの希望に満ちた顔を見ることができて感激しました。

昨年度は、一年生の担任でした。新型コロナウイルス感染症の影響で六月が入学式となりました。四月、五月は、例年ですと六年生が手を繋いで礼拝に連れて行ってくれたり、新入生歓迎会を企画してくれたりします。ゆつくり仲良くなる期間が短かった新一年生たちでしたが、元氣いっぱい笑顔で頑張りました。当時の六年生たちも一年生を見かければ、声をかけて励ましてくれました。この小さな声かけは、一年生の心を優しく包み込み、不安を安心に変えてくれました。言葉の力の大切さを感じます。今年度は、言葉と仲良くなる授業を一緒にやりたいです。

皆様はじめまして

教諭 栗原 詩津子

皆様はじめまして。この四月から中学校で社会科を受け持つ栗原詩津子(くりはらしづこ)です。

今は三月、学生として過ごす最後の春休みの日にこの原稿を書いています。

去年はコロナ禍で、皆さんも、そして私達も学生として、児童・生徒として、やりたかったこと、できなかったことが沢山あったと思います。私も、もう少し先生方や同級生と直接会って、学校生活を楽しみたかったです。

生徒の皆さんはどうだったでしょうか？

そしてあつという間に二〇二一年度が始まるうとしていきます。春は出会いと別れの季節、緊張もあります。私も凄く緊張しています。

そんな中、私がこれから担当する社会科という教科は、昔の人のお話や、遠い国のお話や、まだ大人じゃないから使わないよ、なんて思うお話もあったりもします。

けれど、これらのお話は、例えば皆さんより二百年前を生きていた人生の先輩のお話であり、どこかで友達になる人の国のお話であったり、皆さんの生活と繋がっていくお話だったりします。そんな社会科の授業を、春から楽しく、皆さんと学ぶことができるよう、頑張りたいと思っています。

今年度から、よろしくお願いたします。

今年度の抱負

教諭 黒澤 優

Mr.Childrenの曲で「彩り」という曲があります。この曲を聞くと「働くこと」について考えさせられます。特筆すべき歌詞の一部を載せさせていただきます。

『僕のした単純作業が

この世界を回り回って

まだ出会ったこともない人の

笑い声を作ってゆく

そんな些細な生き甲斐が

日常に彩りを加える

モノクロの僕の毎日に

少ないけど 赤 黄色 緑』

先日、ドラッグストアで大量に陳列されているマスクを見て、「去年の今頃は貴重品だったなあ。」とふと思いました。「当たり前」が崩れる時、人は不平不満を口にしがちですが、世界中のひとりひとりの働きが巡り巡って、マスクが「当たり前」に手に入るようになりました。日常に目を向けて、小さなことにも感謝できる者でありたいです。

私自身ができる働きはわずかですし、今年度も制限された活動が続くと思われませんが、その中でもステパノ学園の子どもたちの日常に「彩り」を加えられるように希望をもって働いていきたいです。

## 新年度の抱負

庶務 小出 初美

早いもので、もう新学期がスタートになりました。

コロナ禍の中、休校になることもありましたが、今では毎日、元気に登校してくる子ども達の姿に喜びを感じます。

今年はそのような状況の中、整理・整頓・清潔をより一層心がけなくてはなりません。

窓を開け、換気をすること。消毒作業は、かさず徹底しなければいけません。

学校生活を、安心して子ども達や教職員の皆さんが過ごせる環境をつくるのが目標です。

今年一年、よろしく願います。



## ウイズ・コロナの時代に

教諭 根田 栄子

正にコロナに翻弄された一年が終わりでした。けれど、二十一年度も引き続き『新しい生活様式』が求められているようです。

何かと制約の多いこの様式下ですが、今年度も小学校音楽専科として、子どもたちの音楽を楽しみ心を育んで行かれるよう、工夫をして乗り越えて行きたいと思います。緊急事態宣言も解除され、少しずつ楽器（鍵盤ハーモニカやリコーダー）も扱えるようになるのでは…？と期待しています。

また、久しぶりに『持ち上がり』で、新小三年生の副担任をさせていただける事となりました。二年目の今年は、元気で個性的な十二人とより良く、より深く、関わっていききたいと思います。赤田先生と協力して、クラスのみなが安心して学校生活を送れるようなクラス作りを行っていきたいと思います。

また、中学年となった今年は自分でできる事を増やせるよう、手を出し過ぎず『見守る』ことも心がけなければ…と思っています。

教科は引き続き算数を担当します。一人ひとりがまず自分で考え、気付いて、学んでいける楽しい授業をめざします。

また、今年度中にはもう少し聖歌を奉唱できるとなると思うので、オルガンの練習も頑張ります。

## 「個」と「交わり」

小学校教務副主任 咲間 直人

聖書の授業で「敵を愛しなさい」ということについて話をした際に、戦争についても話をすると、ある児童が「戦争が一人ひとりから始まるなら、平和も一人ひとりが仲良くすることから始まるんだね」と言いました。まさにその通りです。一人ひとりという個と、そこにある関係性に目を向けることによつて、事態は好転していくと感じています。

今年度は幸いなことに三年間続けて同じクラスを担当させていただきまます。慣れ親しんだ間柄だからこそ、改めて個を重んじ、尊重することを意識した上で「人と人との交わりの機会」を大切にしていきたいと思ひます。

神様は「人が独りでいるのは良くない」とおっしゃいました。私達は既に、神様との交わりの中にあります。同時に人も互いに向き合い、支え合う関係性の中で生きています。様々な人と交わりの中で自分と他者を比較し不安を覚えることもあるかもしれませんが、それを解消するためには必要なことは、誰かの支えであり、交わりの中から生まれるものです。

学校は、その交わりの場の一つです。一人ひとりが、神様に愛されたかけがえのない存在としてこの場にいることを伝えつつ、交わりの機会と環境を整えていくために、個に応じた言動を心掛け、誠実に子ども達と向き合う一年になるよう努めてまいります。

今年度もよろしく願います。

非常勤講師 笹尾 和子

御心に適うように

教諭 佐々木 心

「教学相長」

教諭 澤邊 高介

新入学、進級おめでとうございます。  
今年度もよろしく願います。私は皆さんと一緒に勉強できることをうれしく思っています。感染症対策をしながら気をつけて学校生活をしていきましょう。

昨年の今頃は新年度開始、行事の日程などが変更され不安だったことを覚えています。歴史の教科書に書かれていた「伝染病のまん延」を自分が体験するとは思っていませんでした。今までにない驚きと緊張感をもって感染症対策をする生活が始まりました。

毎日のニュースで新規感染者数の報告を聞いて気持ちがモヤモヤします。どんな対策をすると効果があるのか？皆が真剣に考えたと思います。マスク着用の時間が長いので少し辛いと思います。ですが、再開したステパノ学園の中は、たくさん笑顔が有りました。いくつか制限はあるけど「やっぱり学校がいいな」「友だちがいるって素晴らしいな」と思いました。近い将来マスクいらすの生活に戻ったとき出来ることをしましょう。  
私たちは神さまに感謝して、今出来ることを大切にして努力していきましょう。

今年度より聖ステパノ学園小学校の教員に加わらせていただきます、佐々木心と申します。学生時代から祈り求め続けてきた、「キリスト教系の小学校で仕えたい」という願いを神様は聞き入れてくださり、昨年の教育実習にて聖ステパノ学園に導かれ、多くの学びと尊敬する先生方との出会いに大変恵まれました。『ごらん、冬は去り、雨の季節は終わった。花は地に咲きいで、小鳥の歌うときが来た。この里にも山鳩の声が聞こえる。』（雅歌二章十一―十二節）花々の香りをのせた心地よい風や、厳しい冬を越え一段と輝く爽やかな太陽の光、いきいきと活動を始める生き物たちの姿から新たな春の訪れを感じるこの季節に、再びこのような形で私を置いてくださっていることに、心から感謝です。人としても、教育者としても、信仰者としても、欠けだらけの器ではありませんが、先生方や保護者の皆様、お子様方との歩みの中で学び続け、主の御心に適う者になれるよう努めます。感染症による不安が未だ日本中、世界中に広がっている今日この頃ですが、神様が子どもたち一人ひとりに立てておられる御計画を仰ぎ見つつ、子どもたちの成長の日々を、全力で支援して参ります。末永くよろしくお願い申し上げます。

聖ステパノ学園に来て五年目になりました。一年目は小二の副担任、二年目は小三の担任、三年目は小四の担任、四年目は小五の担任を務めさせて頂きました。そして、今年是小六の担任に：なんと、同じ学年に五年連続で関わらせて頂いています。こうして、続けて同じ子どもたちの成長を見守らせて頂くこと、また、卒業を控えた大事な小六という学年で関わって頂けること、幸せなことだと感じています。

春休み、机の整理をしていたら一年目の小二のクラスの集合写真が出てきました。ついこの前撮った小五の集合写真と比べると、皆幼い：！この3年間で、とても成長したことを実感しました。クラスの人数も増え、小二の始めは十人だったのが、今では、倍の二十人に。この四年間、子どもたちやクラスが成長していくのと同様に私自身も一緒に成長させて頂いたことを実感しています。

「教学相長（きょうがくあいちょうず）」。  
人に教えてみて、人に教えることの難しさが分かる：そこから、人に教えることは自分の学びにもつながるという意味の言葉です。この四年間で学んだことを総動員して、小六という小学校のまとめに入る子ども達を確りと支えていきたいと思えます。

## 新年度の抱負

総務 新庄 主来

聖ステパノ学園で働かせて頂くことになつてから早、二年が経ちました。

この二年間を振り返ってみると、自分でも気づかないうちに自分の弱さが克服されてきた気がします。もし、事務職という仕事が与えられなければ、人と話すことの苦手な私は、人前に出ることを極力避ける生活を続けていたと思います。

聖書に

「神のなさることはすべて時にかなつて美しい。」

と言う御言葉がありますが、その時には喜ばしく思えないことでも神様は、その人の将来を覚えて良き働きをしてくださっているのです。

いま改めて、イエス様の偉大さを覚えます。新年度も成長させてくださるイエス様に期待しつつ、私自身の弱さに負けずに努力し、与えられた職務を忠実に果たして行けたらと願っております。

そして何よりも、少しでも皆様のお役に立てるよう聖書の「私は私を強くしてください。方によってどんなことでもできるのです。」という御言葉を堅く握ってイエス様とともに歩んで参りたいと思います。

## 春風と共に

新

教諭 高桑 恵

昨年度は、新型コロナウイルスの影響で様々な規制があり、子ども達にとっても教師にとっても我慢の一年となりました。そんな中でも、子ども達はできる遊びを探して楽しんでいました。我慢と思えばストレスですが、規制すらもルールだと思つて楽しんでしまうという子ども達に教えられた気がします。今まで当たり前だった事が当たり前ではなくなり自分自身の人生観も変わりました。まだまだコロナの不安はつきまといますが、春になれば花々は綺麗に咲き誇り、鳥たちも元気に鳴いています。変わることはない物を神様は備えてくださっているのだと考えると、とても気持ち落ち着きました。新学期はなるべくポジティブな声掛けを心がけて希望をもつて、進んで行きたいと思います。

今年度は、5年生の担任をさせて頂くことになりました。昨年度からの持ち上がりで子ども達との関係性がとれている分、安心して過ごせるのではないかと思います。お互いの存在を認め合い、仲間のことを思い合えるクラスを目指して一年間頑張ります。保護者の皆様には、ご支援とご協力をよろしくお願い致します。

## 新天地で

主幹 高橋 謙二

聖ステパノ学園に奉職して三十年、多くの出会いや別れ、様々な経験をさせて頂きました。まさかこのようなコロナ禍時代が訪れることは予想だにしませんでした。昨年度は小学3年を受け持たせて頂き、子どもたちの素直さを知り、また子どもたちへの保護者の方々の真剣な思いを感じる事がありました。特に『教師』は教え語るだけでなく、それ以上に謙虚な姿勢で学び聞くことがとても大切だということを再度教えて頂きました。

新年度は山口先生の後を引き継ぎ、教育相談・学習支援・進路相談という立ち位置で、学園全体の支援サポートをしていくことになりました。正直とても不安なところがありますが、このような職を与えられたのも偶然ではなく、神様のお導きだと考え一生懸命精進して参ります。

相談に関しては、まずは児童・生徒そして保護者の方に、気を遣わせることなく寄り添い、心の内に触れ、一步一步前に進めるように支援し、聖ステパノ学園での学校生活が心身共に充実したものとなることを心がけて努めていきたいと思っております。『こんなことを相談してよいのか』などと考えずに些細なことでもご相談して頂ければ有り難いです。本年度もどうぞよろしくお願ひ致します。



## 新年度の抱負

中学校教務主任 田中 圭史

小学校に引き続き、今年は中学校で新学習指導要領が実施となります。そのなかで重要なのがSDGsに基づく「持続可能な社会の作り手」を育成することです。

私が担当させていただく理科では、学習内容の終わりの方に「自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくること」が重要であることを認識すること」という一文があります。これは何のために学んでいくのか、一つの答えです。

子どもたちが環境問題に限らず世界に目を向けて関心をもっていくことは、彼ら自身の将来のために必須です。そのために必要な知識や技能、価値観を伝えていきたいと思いません。彼らが正確な事実を身につけ、それに基づいて考え、社会の出来事を判断することができるようになることを願い、取り組んでまいります。

問題を解くだけでなく、得た知識をどのように活用していくか。学習が一人ひとりに内在化していくところまで見ていきたいと考えています。そのために自分自身が様々な学びの場に触れて、裾野を広げるように努めてまいります。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 今年の抱負

校務 飛田 裕二

昨年から続くコロナウイルスのせいで生活環境がガラッと変わってしまいました。飲み会や旅行、様々なイベントなどが中止になったり延期など制限される生活が続く、みんなストレスが溜まっているのではないのでしょうか？上手に発散させて、この局面をみんなで乗り越えて行きましょう。

登校、下校時に、挨拶をした時には、雑談などをして子どもたちとコミュニケーションを取っています。一番感じることは、子どもたちが素直だと思えます。大人になると忘れがちになる素直さを、今一度思い出して子どもたちと接して行きたいです。最近、挨拶の大切さが薄れていく中で、自分が若い頃先輩に教わったことは「仕事ができなくても、挨拶はしっかりしろ」ということです。挨拶しなかったら直ぐに叩かれたり、蹴られたものでしたが、今の時代は駄目なので懐かしい思い出です。古き良き時代、駄目なものは切り捨てて良いものを残していけたらいいなと思います。

今年もコロナウイルスでどうなるかわかりませんが、子どもたちの安全を守るように努力したいです。子どもたちの笑顔が自分の心のパワーにもなっているので、笑顔で挨拶しましょう。宜しくお願い致します。

## 精一杯の応援を

養護教諭 土橋 久美子

「応援すること」は私のライフワークです。養護教諭の仕事はまさに学校に通ってくる子どもたちの応援そのものです。ケガをしてしまった時や具合が悪くなってしまう時などは、心細くなつて帰りたくなる子どもたちもいるのですが、帰るほどでなければ「少し教室の様子をみてみよう」と声をかけます。これだけで、授業に出られたことが自信となつて、次の休み時間には「もう大丈夫！」という声が聞かれます。「がんばって授業に出て、偉かったね。」という、自信に満ちた嬉しそうな笑顔が返ってきます。応援がプレッシャーにならないように、とは思っています。ステパノの子どもたちからは、とても素直で力強い反応が返ってくるので頼もしい限りです。

子どもたちが学校で過ごす期間は有限で、いずれは学校から卒業していきます。もちろん、卒業した子どもたちのことも応援していきますが、直接応援できる機会はそうそうありません。昨年度、コロナに翻弄されても見事に乗り切った子どもたちです。今年度も悔いのないように精一杯応援し、その成長を見守っていきたいと思います。一年間、よろしく申し上げます。

大きな声で挨拶をする、手を繋ぐ、近くで顔を見ながら話を聞く、休み時間には一緒に戯れる、等々・・・子どもたちと関わる教育の有効な手段をことごとく封印されて一年が過ぎた。

『ソーシャルディスタンス』という言葉は、それまで我々の中心にあった『絆』をどこかへ蹴り出してしまった、と思われた。

しかし、六月に始まった学校生活は、奪われたものよりはるかに多くコミュニケーションツールがあることを証明してくれた。

私は、一年生の副担任だった。お互いにマスクをつけて、顔の半分以上を隠してはいても、喜怒哀楽は十分伝え合うことができた。実に楽しい一年だった。

今年度は、続けて二年生の副担任になった。どんどん成長していく子どもたちの姿を見るのが楽しみだ。

今年度は、前年度のようなウイルスに対する恐怖との戦いはない。新たに獲得した人間のしたたかなコミュニケーションツールを駆使して、安全かつ楽しい学校生活を子どもたちと実現していきたい。

方法は取り上げられても、繋がりたいういう気持ちさえあれば大丈夫だろう。

「今、できることをしよう。」

こんな事を考えて昨年生活を送りました。新型コロナウイルス感染症の対応で一年間があつという間に過ぎてしまいました。昨年度初め、対応ができるのか戸惑いながら消毒などを行っていました。今では日々の生活の一部として行うことができるようになりました。今年度も引き続き対応に追われることも多々あるかもしれませんが、一つずつ落ち着いて行動していきたいと思っています。

さて、昨年度は中学2年生の担任を仰せつかり、今年度は引き続き中学3年生の担任を任せて頂きました。昨年度末クラス全員で「中3を送る会」を行うことができました。行事が中止になることが多かったのですが、クラスのみんで会を成功させられたのは本当に良かったと思います。卒業生の皆さんもとても喜んでくれていました。中学3年生になると学習・行事など忙しく感じることもあると思いますが、みんなで協力して乗り越えていってほしいと思います。

私は担任として中学3年生の皆さんに充実した一年を過ごしてもらいたいです。もちろん楽な事ばかりでなく大変なことも多々あると思いますが、最後まで取り組み自分の成長に繋げてもらいたいです。米原先生、黒澤先生と共に皆さんを支えていきます。

今年もまた春が巡ってきました。前年の春からこれまで、長く続く閉塞感と不安の中、社会及び学校生活のあり方が大きく変わらざるを得ない状況に置かれ、それは今も続いています。子どもたちが社会の作り手として生きる将来も、私たち大人の経験しなかったものとなることは、確かでしょう。

直接コロナ禍の影響と限られたものではありませんが、今後ますます必要となるのは、チーム力。社会生活であれ仕事であれ、リーダーにすべてを委ねていくのではなく、それぞれの特性に合わせていろいろな役割を大切に担い合い、得意なことを楽しみながら深めていく。批判するのではなく、他者を認め、チームとして協力して生きていくことができます。求められる時代となるのではないのでしょうか。

物質的な豊かさだけでは、人は幸せを感じることはできません。他者から必要とされること、自分が他者が必要と思えることが真の幸せにつながるかと私は考えます。

豊かな人生の基となる教養、その素地を作るのは学力です。同時に、他者と共にチームとして生きる力を子どもたちが身につけていけるよう、全ての教育活動を通じて働きかけたいと思います。

## 抱負

学習支援 西村 聖司

はじめまして。今年から臨時教育学習支援員として子供たちの学習支援をさせていただきます西村聖司です。

4月からこのステパノ学園でたくさんの子供たちと関われる機会を楽しみにしていました。今、新型コロナウイルスの影響により、塾に通うことが難しい生徒や学習面で不安を抱える子供たちが多くいると思います。彼らの不安や疑問をひとつずつ丁寧に解消し、また無くしていきたいと思っております。

子供たちが元気に、また楽しく学校生活を送れるように非常勤ではありますがサポートしていききたいと思っております。ステパノ学園で子供たちと新しい発見ができることを楽しみにしています。

勉強と人間性の成長が必要となるこの大切な時期に臨時教育学習支援員として関われることに心から感謝しています。一人ひとりの勉強や道徳面でのサポートができるよう一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします。



## 今年度の抱負

中学校教務副主任 二椛木 健太

昨年から新型コロナウイルスが日本中で流行し、私たちの生活は様々なことが変化していきました。暑くても年中マスクを着用し、人との間隔をあげ、食事中は極力話さないことや学生も社会人もリモートで授業や仕事をを行うなど今までの常識では考えられないくらい社会も変化をしてきました。

今、新型コロナウイルスの影響で時代が大きく動いている中で新入生の18名を迎えます。今までのステパノの良さを残しながらも新型コロナウイルスへの対応を含めた新しい行事や学校生活を作っていく世代となると感じています。

その新たな世代の子ども達と生活し、共に成長していくには自分自身も大きく変わっていく、変わる勇氣を持つていくことが大切だと思えます。自分自身、ステパノに勤めさせて頂いて早くも10年が経ちました。新たな世代と共に新たなステパノを作っていくように思っています。



## 新年度の抱負

非常勤講師 能條 貴大

二〇二一年、とうとう新生活が始まります。だんだんと暖かくなってきたので、仕事の間や暇な時間に散歩をしていると、桜が綺麗に咲いていたり、道端の何気ないところにスミレが咲いていたり、普段の道がすっかり色づいていることに気が付きます。

散歩をするようになったのは去年からで、それまでは忙しさを理由に、運動から離れた生活を送っていました。そのため、二〇二〇年は、体を動かす事が目標で、散歩はその手段の一つでした。今まで通ったことのない道を歩き、景色を楽しむことは、自分が思っていた以上に楽しく、癒しとなってくれました。

二〇二〇年は誰にとっても大変な一年であったと思えます。だからこそ、今年は季節の変化をもっと身近に感じ、小さな変化を楽しみ、ゆとりを持って生活することを抱負にしようと思えます。



## 希望の一年に

小学校教頭 長谷川 誠子

新しい年度がいよいよ始まりました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で思いもかけない一年となりました。子ども達や保護者の方々にも我慢と忍耐でご協力いただき本当に感謝でした。ありがとうございます。

昨年度は、大幅に遅れた入学礼拝式も今年度は予定通り行うことができそうで大変嬉しく思います。小学校生活のスタートをスムーズに始めることはとても大切で、子ども達の気持ちを明るく前向きにし、希望を持って一歩を踏み出すことに繋がっていきます。

今年度は小学校一年生を担任することとなりました。小学校という新しい環境への入学で子ども達も、そして保護者の方々も希望と共に不安もあると思います。しかし、焦らず、慌てず、ゆつくりと学校生活に慣れるようにやっていきたいと思しますので、一緒に考えながら進めていきたいと思います。

一年生の最初の頃、不安な様子だった上級生達もいましたが、どの子どもも学校生活を送るうちに元氣いっぱい登校するようになり、楽しんで学校生活を送っています。

学校は楽しい、お友達や先生と一緒に過ごすことが嬉しいと思えるような一年にしていきたいと思えます。

どうぞご協力を宜しくお願い致します。

## 当たり前の光景に

非常勤講師 伴 茉莉子

昨年度は授業が六月開始となり、書写は感染対策が整うまで硬筆の授業となりました。字を書くことに変わりはありませんが、筆ならではの表現から得られるものは多く、できるだけ早く毛筆の授業を再開したいという思いがありました。

十月に入り、授業時間の確保と感染対策の目途がたつたところで各学年毛筆の授業へと順次切り替えました。配慮が必要な部分や段取りの変更などはありませんでしたが、子ども達が半紙に向かって一斉に書く光景には安堵を覚えました。また新しい手順に慣れるまで一回の授業で書くことができるのはほんの数枚でしたが、回を追うにつれ手際良く進むようになり、次第に枚数を重ねられるようになりました。子ども達の柔軟性に助けられ、新しい習慣が当たり前になるまでそれほど時間はかかりませんでした。

様々ありましたがこのように新しい年度を迎え、久しぶりに春の景色の中で授業を始められることを嬉しく思います。まだ手探りの部分はありますが、引き続き予防措置を念頭に置きながら、四月からも多くの作品に出会えるよう努めてまいります。そして子ども達が持つそれぞれの文字を大切にしながら、一緒に楽しく書いていきたいと思えます。

## 新年度の抱負

学校図書館司書 平野 朋子

ご入学、ご進級おめでとうございます。聖ステパノ学園の図書室で司書をさせていただいている平野です。図書室は、体育館棟二階の音楽室の隣にあります。ここが、小学校共通の図書室です。

昨年度は、休校や短縮授業があり、図書の貸し出しは二期からとなりました。小学校一、二、三年生はクラスごとに、四、五、六年生は曜日を決めて昼休みに貸し出しを行いました。中学校は貸し出し予約票を使って、図書室の本のリストの中から選んだ本を先生を通して届け、返却はポストにお願いしました。図書委員の活動も貸し出しも、例年通りにはできませんでしたが、皆で協力して感染症対策を行い貸し出しができたことはよかったです。

今年度は、図書室を利用できる時間を増やすことと、児童生徒の求める本を揃えること、物語だけではなく様々な分野の図書を紹介し、全ての教科に係る読解力を身に付けることができるように、読み、理解し、自分の考えを持ち、それを表現することができるよう活動していきたいと思えます。

今年度も、どうぞよろしくお願い致します。

庶務 松崎 由香

私の一番好きな桜の季節になりました。レリーフにも桜の木があります。何となく眺めているとふんわり優しい気持ちになります。

月日が経つことをとても早く感じる日々です。昨年を思い返せば、コロナウイルス感染症の拡大により様々な事が中止や変更を余儀なくされました。「当たり前」に出来ていた事が出来ない。そんな非日常の中で、気持ちのやるせないを感じた年でした。

今年も引き続きコロナ禍ではありますが、新しい年の始まりです。早くみんなの素敵な笑顔に出会える事を楽しみにしています。そして、少しでも日常に近づく事を祈りながら心機一転、業務に取り組んで行きたいと思えます。常に初心を忘れずに。自分に出来る事の中で、新しい発見も探してみたいと思います。今年もステパノで皆さんと過ごせる事に感謝しています。



教諭 松村 はるか

教育の喜びは、ひとえに、児童生徒の成長を目の当たりにすることにあります。そして、教育の楽しさは、私自身が彼らとともに成長できることにあります。

昨年度は COVID-19 の影響で学校行事の規模が縮小され、児童生徒の成長への影響が心配されました。

ところが、私が出会った子どもたちは、驚くほど豊かでのびやかな成長の姿を見せてくれました。寂しいことやつらいこともあったでしょうに、単調な毎日に辟易するどころか、日々の生活の中で、毎日の授業の中で、彼らは確かに成長していきました。

日々、彼らが成長できる環境を整えることがいかに求められているか。たった一時間の授業を通してですら、子ども達は成長する力をもっています。

これから、社会は変化してゆくでしょう。それを柔軟に受け入れ、多様性を喜び合える社会を構築していくことは私たちの務めでもあります。

今年度も学園の英語教育と国語教育に携わります。明朗で快活な新四年生との日々はどんなに楽しいものになることでしょう。与えられる喜びを深く味わい、毎日を楽しんで新たな一年を過ごしたいと思います。

陶芸部顧問 宮本 光春

高温で焼くと硬くなる土を世界で初めて器作りに展開したのは縄文人だと学校で習った記憶があります。その縄文土器の作り方は土に水を加えて練り、両手で紐（細長いソーセージ状）を作ってイメージする形状に積み上げて成形したものと分析されています。

現在、陶芸部の子供たちがロクロの上で作り込む手順と全く同じです。一万五千年前の作陶術が今に受け継がれていることを考えると土がそうさせているように思えてきます。

土（粘土）は地球の星としての営みの中で花崗岩などが、水・熱・ガス等で風化され堆積したものです。天文学的な時間を費やして精製されたその宝物で、子供たちは古代からの作陶術に倣い創作に励んでいます。

アトリエでは個性に富んだ作品が生まれます。陶器はライン生産の多い磁器（陶石などを人為的に粉碎して調合した磁土が原料）に比べ見方が色々です。形に崩れはあるがそこに味わいを感じる、眺める角度により表情が違って面白い、等様々な評価が生まれます。

子供たちの作品には感慨を覚えます。手をとド口まみれにしながらの作りや、土締め工程では指や腕の筋肉痛を堪えて仕上げた完成品です。今年度も子供たちの個性に触れ合いながらサポートしていきたいと思えます。

教諭 米原 佑樹

八年前、奉職一年目は小学校一年生の副担任としてスタートしました。お互い右も左もわからない新人教員と新入生。今思い返しても笑ってしまうような失敗をいくつもしながら、子どもたちと一緒に多くのことを学ばせていただきました。

それから六年後。偶然にも彼らと同じタイミングで私も中学校にあがることとなり、そのままクラスを共にして今年で三年目。小中でステパノ一年生と一緒に経験した子どもたちを中三の卒業学年でまた受けもてるということには、なんとも感慨深いものを感じます。入学当初を思えば頼もしく感じる瞬間が随分と増えてきた子どもたちですが、ステパノの集大成となる今年度ではさらに大きな成長をみせてくれることと思います。

withコロナで過ごしたこの一年は困難の連続でしたが、今までの形にとらわれず新しいことに挑戦するチャンスでもありました。「ステパノまつり」を新たに「Stephen国際映画祭」に作り変えた去年の中三も見事な活躍でしたが、きつと今年の中三は去年の経験をいかしてさらに新しい取りくみを展開してくれることでしょう。子どもたちが胸をはって卒業式の日を迎えられるように、子どもたちと力をあわせていきたいと思っています。

教諭 和田 好江

ご入学・ご進級おめでとうございます。今年度は、昨年一年間のコロナ禍での生活経験を活かし、本来のステパノの教育がどうできるのか真価が問われる年だと思っています。そんな中で自分に何ができるのか、どんな授業や行事などがどのような形であれば実現可能なのか、粘り強く前向きな気持ちで準備したいと考えております。

私が担当する体育科では、コロナ禍の体育授業でこれまで大切にしてきたことができない状況下になりました。感染予防対策の「飛沫防止」のためマスクを着用することで、これまで積極的に全力で運動することを奨励してきましたが、種目や場所によっては思い切った運動の機会は減りました。また、「接触防止」のため授業前後の手洗いのみならず授業中のアルコール手指消毒をしながら、更に多人数の道具の共有や触れ合いはかなりの制限がありました。

個性豊かな児童生徒達が、尊重し合える健全な集団を形成することが私の理想とするところです。今こそ、「心は繋がっている」と実感できる教育を目指していきたいです。できなくなつたと嘆くのではなく、前向きに、生き生きと積極的に運動に取り組む児童生徒を育てたいです。

一年間どうぞよろしく申し上げます。





新しい一年が始まりました。

新役員より、皆様にご挨拶申し上げます。

【中学校代表】

少人数で個々の特性を尊重してくれて、自己肯定感を高めてくれる学校で息子も毎日楽しみに登校しております。逗子在住。趣味はウインドサーフィンとスケートボード。息子と一緒にできる日が楽しみです。

【小学校代表】

今できることを、必要に応じて、精一杯頑張りたいと思います。平塚市在住。去年の春に始めた編み物が楽しくて、夢中になっています。

【小学校代表】

三年間、子供のことは学園の先生方にお任せっけりでしたので、この辺で少しはお役に立てればと思います。二宮町在住。テニスでストレス発散しています。

【書記】

日々、元気に登校する姿を見て、嬉しく思います。先生方に感謝申し上げます。小田原市在住。最近、ウルトラマンの1000ピースのパズルを家族で挑戦中です！

【書記】

平和に祈りを込めて、子供たちの成長を願

いつつ一年間頑張ります。横浜在住。英会話レッスンに励むも初級から脱するべく奮闘しています。

【書記】

書記を続投させて頂くことになりました。SAでの活動も制限された状況下ではありませんが、今できることを考えてやっていけたらと思っております。二宮町在住。

【書記】

息子を愛して下さる学校に、感謝の気持ちで尽力させていただきたいと思えます。大磯町在住。筋トレにハマっています。

【会計】

SAの皆様一人ひとりと共に。心を込めてお仕事させていただきました。茅ヶ崎市在住。最近数年ぶりにパン焼き機を使い始めました。

【会計】

入学当初から比べ、だいぶ成長した息子。日々感謝の気持ちでいっぱいです。小田原在住。趣味はバドミントン。コロナ禍では、酒匂川沿いをウォーキング。どちらもメインはおしゃべりです！

本卒の編集を担当する「SAの部屋」委員は二人でスタートします。

コロナ禍での活動には制約もありますが、一年間、どうぞよろしくお願ひします。

一年間、どうぞよろしくお願ひします。

STEPHEN'S NEWS

【2020年度表彰】

○実用英語技能検定 3級合格

小3 SR 中2 AN

○全国納税貯蓄組合連合及び国税庁が

実施した「中学生の税について」

優秀賞 中3 OR

【離任者・着任者の紹介】

○離任者

事務長 中林 三平

中学校教諭 飯田 幸子

中学校教諭 宮崎 幹子

スクールカウンセラー 山口 滋美

○着任者

小学校教諭 佐々木 心

中学校教諭 栗原 詩津子

学習支援 飯田 幸子

学習支援 西村 聖司



【編集後記】

新学期、子どもたちの声が響き渡り、春の景色の中で一気に輝きを増した学園です。

「去年できなかった分まで、行事が楽しみです。」という子どもの願いがかない、学び多き一年となりますように。(た)

代表者 学園長 小川 正夫

発行者 ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

http://www.stephen-iso.ed.jp  
二〇二一年四月十三日(火)発行 第253号